

# 風のたより

第1号

子ども支援ネットワーク With Wind

2014年9月1日発行

みなさま、はじめまして 子ども支援ネットワーク With Windです。  
私達は、昨年(2013年)7月から宗像市子ども育成課と協働で  
子どもの居場所事業を始めました。  
子どもの居場所事業の主な活動は、子どもプレーパークの開催  
とMUNAKATA BASEという中高生の居場所づくりです。

この1年、そこで出会った子どもたちから、たくさんの笑顔や  
つぶやきを頂きました。お便りにしてお届けします。

## 「できない」「でものぼりたい」4歳児 1時間半の格闘

自分だけの力で、木をつたって、登れる子だけが倉庫の屋根の上  
に登れる。友だちも登ったのに、どうしても登れない。悔しくて、悔  
しくて、大泣き。泣きながらも登りかけては降りるが、やめない。親  
がいたたまれなくなり、叱ったり、手伝おうとするので、スタッフが  
対応し、見守りに徹するように伝える。

自分の力で登れるだけの力量がないと、降りられないし、とたんに  
危険な場になってしまう。悔しくて泣いているということ。あきらめて  
ない素敵な気持ち。でも、子どもの泣き声は、親にとっては、はが  
ゆい気持ちや、どうにかしてやりたい気持ちで、本当につらい。  
スタッフとして、子どもの気持ちを代弁しながら、子ども自身が選ん  
でいる行動を応援して見守る。子どもが泣くことは、いけないことじ  
ゃない。泣きながら大人になっていくことに寄り添ってあげよう。プ  
レーパークは、そんな子どもの気持ちを大事にしている場だと伝え  
ながら…。

その間も、その子は、「できん」「でも、のぼりたい」「手に力が入ら  
ない」「のぼりたいんだ」等と呟きながら、1時間以上頑張っ、最  
後には登ることができ、周りから拍手が起こった。その時の笑顔が  
最高に素敵だった。その後、今度は降りられない、怖くて泣き始め  
る。また、30分くらい時間をかけて降りることができた。さらに、  
自ら登ろうとするが、また、登れないで泣く…周りの子どもが応援  
したり、そっと遠くから気にしたり、上手な関わりが生まれていた。  
最後に、もう一度登りたい、少しだけ親の力を借りながら登り、応  
援の声を受けて降りてきた。その顔は、はつらつとしていて、その  
後は、嬉しそうに、周りの子どもと走り回って遊んでいた。

子どもの心が動いていることに大事に寄り添いきったことで、大人  
も喜びにひたることが出来た。心からありがとう！！



「俺に任せろ…」「わかった」火を極めようとする  
お兄ちゃんたちをじっと見ているのです。



↓ 心が動いたら 次々に、続きます。



「触るなよ！」大きい子の一言で、みんな静かです。

8月9日、16日の土曜の夜、FM福岡  
『おいしい話、嬉しい時』という番組で  
プレーパークについてお話ししました。  
その一部をご紹介します～す！！

### 「プレーパークをどうして始めたの？」

私は、元看護師で、産婦人科と小児科で沢山の親子と  
出会いました。そこで、人間の成長・発達(生から死)についての  
興味が、私のライフテーマになりました。

その中で、ママ達が、妊娠期や育児が始まってからも腱鞘炎や  
腰痛等、体の不調の方が多く、生まれたばかりの赤ちゃんの  
ことをよく知らないでママになる事などがわかり、その結果、  
せっかく赤ちゃんを授かったのに、自分の体の不調の為に  
苦しい育児になっていたりと、適切な対応がとれない場合も  
あるように感じました。

健康な親になるために、子どもの頃から遊びを通して、しなやかな  
心と丈夫な体を作っておく必要があると強く思いました。

同時に、日本人の子どもは、諸外国の子どもと比べて、過剰な過干  
渉、過保護の中で、自己肯定感が低いというデータもあり、

10代からの自殺者も多いので、私は、せっかく授かった子どもと  
その親が、幸せになってほしいと願って、その子どもたちの元気  
な成長のためには、自らが選んで自ら遊ぶ体験が最も大切で、そ  
れは、外遊びの中でなら、容易にできると考え、プレーパークを  
始めました。

プレーパークには、『心が折れるより、骨が折れる方がました』  
という言葉があります。この言葉に、宗像市の子ども部の部長  
も感動し、プレーパークの活動が、昨年度(2013年度)7月  
から、市との協働で始まりました。(文責 藤原)

「プレーパークの発祥は、いつ頃？」  
1940年(昭和15年)以降ヨーロッパ  
を中心に広がった遊び場で、日本では、  
1979年国際児童年の記念事業として、  
東京に羽根木プレーパークが  
最初に出来ました。

現在、日本中に300か所を越える場所で  
プレーパークは開催されていますが、  
宗像市のように市との協働で開催され  
ている場所は、まだまだ少ないのです。  
宗像市は、良いね～とプレーパークに  
遠方から来る方々からも喜んでもらっ  
ています。



参加費無料！

楽しそうだな～♪

「心が折れるより、  
骨が折れる方がました」

という言葉、良いですね～。  
今の子どもたち、いや、大人  
にも伝わる言葉ですねー。

『メイトム宗像』本館横での子どもプレーパーク  
は、あくまでもモデル的な場と考えています。  
子どもが自らの足で行ける所、せめて宗像市で  
は、各コミュニティに1か所程度、プレーパーク  
を作っていきたいと考えています。  
さっそく、今年度より、放課後プレーパークとし  
て、2地域で、毎月1回開催しています。

日の里4号公園 …第1火曜日

自由ヶ丘11号公園 …第2火曜日

いずれも15時～17時

乳幼児さんは、保護者同伴でお願いします。

子ども支援ネットワーク With Windの  
ホームページを7月1日に開設しました。  
<http://withwind.org/> 是非ご覧ください。

子どもの遊びは子どもが生きることそのものです。  
その大切さを理解し、まちじゅうに拡げる大人を  
募集しています。是非、仲間になってください。

子ども支援ネットワーク With Wind

問い合わせ先 090-9407-3432 (藤原)